

○高齢化が進む地域で棚田を再生するために、複数の組織が協定を結び活動を開始。棚田米のブランド化により作付けを年々拡大するとともに、地域企業等と連携したイベント活動の実施を通じて、地域のにぎわいと人の交流を創出。

基本情報

- 所在地：山形県山辺町
- 選定表彰：
 - ・第8回「ディスカバー農山漁村の宝」(R3)
 - ・日本の棚田百選、つなぐ棚田遺産(農林水産省)
- 主力商品・イベント：
 - ・棚田米
 - ・農作業体験
 - ・スポーツ、音楽イベント
- 活用した支援施策：
 - ・中山間直接支払交付金(H23)
 - ・多面的機能支払交付金(H29)
 - ・中山間ふるさと・水と土保全推進事業(棚田基金)(R4)

取組の概要

- 日本の棚田百選にも選ばれた「大蔵の棚田」を再生し、地域の活性化を図るため、平成23年にプロジェクトをスタート。
- 地元の生産者組織が中心となり、田植えや稲刈り、稲杭掛け等の作業を請け負う一方、地元企業、JA、大学が、コンサートやライトアップイベントなど、棚田を活用した交流イベント等を実施。
- 昔ながらの刈り取った稲を自然乾燥して生産する「大蔵棚田米」は、ハレの日に食べる米としてブランドイメージが定着しつつあり、カタログギフトの商品としても採用。「モンテ棚田米」、「山響棚田米」のコラボ商品も展開。



棚田コンサート/山形交響楽団

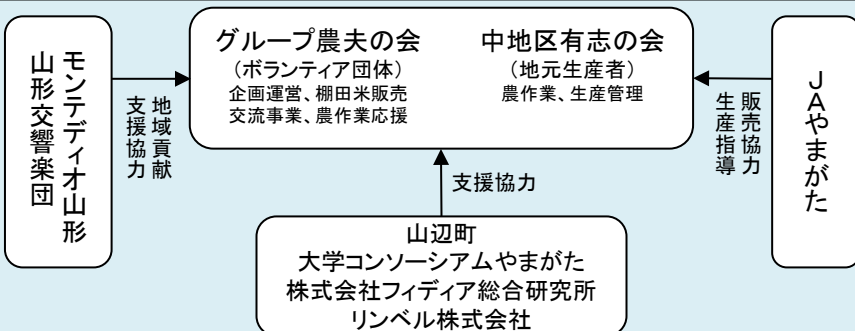


棚田米稲刈り



大蔵棚田米、モンテ棚田米、山響棚田米

体制図



取組の成果

○耕作面積	: 0.4ha (H23)	→ 2.6ha (R5)
○棚田米生産量	: 1.9t (H23)	→ 8.6t (R5)
○グループ農夫の会会員数	: 61人 (H28)	→ 98人 (R5)
○オリジナル商品販売数	: 868袋 (H23)	→ 4,656袋 (R5)
○コンサート来場者数	: 55人 (H29)	→ 120 (R5)

ウェブサイト▶<https://www.group-nofunokai.jp/index.html>



○直売所、旬の果物をスイーツとして提供する農家カフェを運営するとともに、夜間の来客誘致に向け、メディア等と連携した「夜の果樹園」イベントを実施し、売上げ増や雇用の創出を実現。

基本情報

- 所在地：福島県福島市
- 選定表彰：
 - ・未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞（R3）
- 主力商品・イベント：
 - ・果物狩り（さくらんぼ、もも、りんご、ぶどう、なし等）
 - ・果物加工品（リンゴジュース、あんぽ柿）
 - ・農家カフェ（森のガーデン）
 - ・夜の果樹園
- 活用した支援施策：
 - ・福島県地域産業6次化新商品加工支援事業施設整備（H26）

取組の概要

- 40品種以上の果樹を生産し、直売所、観光果樹園を運営するほか、生産した旬の果物を提供する農家カフェを経営。
- GAP認証の取得により、果物の安全性と品質向上、環境への配慮を消費者へアピール。
- 夜間の来客誘致に向け、メディアや写真家、パティシエ等の地元企業からなる「夜の果樹園実行委員会」を立ち上げ、ライトアップされたリンゴ園において、フルーツやピアノの生演奏をする中、果物狩り体験や地域食材を使った料理やフルーツを使ったオリジナルカクテルを提供し、来場者の五感に訴える「夜の果樹園」（数日限定）を実施。



もも狩り



自家製もものパフェ



夜の果樹園

体制図

（有）まるせい果樹園

生産部門

カフェ部門

観光果樹園

夜の果樹園

福島市観光コンベンション協会

取組の成果

- 売上 : 0.75億円（H26） → 1.6億円（R5）
 〔うち 農家カフェ 100万円（H28） → 3,500万円（R5）〕
 ももパフェ 1日最高提供数 約800杯（R5）
- 夜の果樹園来客者数 : 70人（H30） → 350人（R5）
- 雇用者数 : 14人（H26） → 25人（R1）

ウェブサイト ▶ <https://www.maruseifukushima.com/>

- 地域の米生産の振興を目的に、地元農業者と組織する協議会で生産した米を原料とする焼酎等を製造・販売。冬季でも作業可能な酒造を組み込むことにより通年雇用を実現し、Uターン・Iターン者を含む新規雇用を創出。

基本情報

- 所在地：福島県只見町
- 選定表彰：
 - ・第11回「ディスカバー農山漁村の宝」特別賞（R6）
 - ・日本農業賞 食の懸け橋部門 特別賞（R4）
 - ・6次産業化アワード 食料産業局長賞（R2）
- 主力商品・イベント：
 - ・酒類（米焼酎、日本酒（輸出用）等）
 - ・米や焼酎の生産体験/見学
- 活用した支援施策：
 - ・ものづくり補助金（R4）（経済産業省）
 - ・フロンティア補助金（R4）（国税庁）
 - ・中山間地域所得向上支援事業（R2）（福島県）

取組の概要

- 地域の米生産を支えるため、平成28年に農業法人4社を構成員とした合同会社ねっかを設立。特産品焼酎製造免許や輸出用清酒製造免許を取得し、酒類を製造、国内外で販売。
- 地元産酒米の安定供給のため、同社と地元5農家による只見米ブランド協議会を設立し、JGAP認証取得の圃場で酒米を栽培。
- 冬季でも作業可能な酒造を組み込むことにより通年雇用を実現し、地元農業者やUターン・Iターン者の雇用を創出。



酒米の圃場と創設メンバー

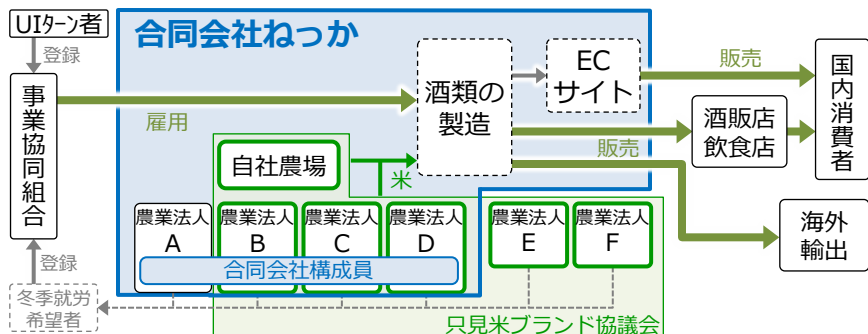


地元産酒米を使用した
米焼酎「ねっか」



通年雇用を可能にした酒造場

体制図



取組の成果

- | | | |
|-----------------|---------------|---------------|
| ○ 酒類の売上 | : 約45百万円 (R1) | → 約86百万円 (R5) |
| ○ 雇用の創出 | : 1人 (H29) | → 15人 (R6) |
| ○ 体験・イベント参加者数 | : 0人 (H29) | → 350人 (R6) |
| ○ 関連圃場の面積 | : 40ha (H29) | → 200ha (R6) |
| ○ JGAP認証圃場で生産の米 | : 50t (H30) | → 80t (R6) |

ウェブサイト▶<https://nekka.jp/>

- 食品メーカーの農業参入により53haのほ場でかんしょを生産し、菓子加工や飲食店等での販売を実施。
- 廃校も利用した体験型農業のテーマパーク「らぼっぽ なめがたファーマーズヴィレッジ」は観光客増、雇用創出に貢献。

基本情報

- 所在地：茨城県行方市
- 選定表彰：
 - ・第56回農林水産祭天皇杯（H29）
 - ・関東農政局ディスカバー農山漁村の宝優良事例選定（R1）
- 主力商品・イベント：
 - ・かんしょの加工品
 - ・農業体験イベント・食育
- 活用した支援施策：
 - ・食品産業の輸出向けHACCP等対応施設整備事業（R2）

取組の概要

- 1年中季節ごとに楽しめる農業体験型のテーマパークで、地産地消のレストランやマルシェ、「焼き芋ファクトリーミュージアム」による食農教育等のほか、景観を活かし、自然と触れ合えるグランピングを展開。
- 地元JAや生産者、行方市や鹿島アントラーズと連携した農業体験・観光誘致を実施。



かんしょの加工品

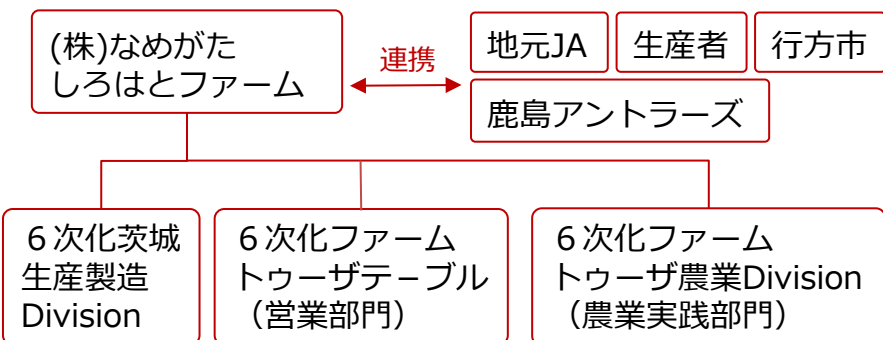


ファームグランピング



農業体験イベントの様子

体制図



取組の成果

- 従業員：正社員50名の他に、多様な人材からなる地域社員とパート社員を雇用することで、新たな雇用機会を創出。R4は100名。
- 来場者数：15万人（H27）→28万人（R1）（週6日営業）
現在はコロナ対策のため、土日祝のみの営業

○古民家を活用した宿泊施設やビール醸造所、地産地消のカフェを運営するとともに、農産物の収穫とサイクリングを組み合わせた体験観光事業を実施することにより、地域における新たな価値の創造と関係人口の創出を実現。

基本情報

- 所在地：茨城県かすみがうら市
- 選定表彰：
 - ・第10回「ディスカバー農山漁村の宝」(R5)
 - ・新しいいばらきづくり表彰 (R3)
- 主力商品・イベント：
 - ・古民家を活用した農泊
 - ・地元食材を活用した料理の提供
 - ・クラフトビールの醸造
 - ・農業収穫体験
 - ・サイクリング
- 活用した支援施策：
 - ・農山漁村振興交付金（農泊推進対策）(R2)
 - ・ものづくり補助金 (R1)

取組の概要

- 空き家だった築110年の元造り酒屋を改修したゲストハウス「古民家江口屋」を運営。
- 宿泊者には、地元食材料理や、地酒・自家製クラフトビールを提供。また、インバウンド向けには、サイクリング&レンコン掘り体験や、霞ヶ浦産の天然うなぎ料理を提供するなど、地域資源を活用した農泊体験プログラムを実施。
- 隣の駅コハン（かすみがうら市交流センター）^{ほとり}を運営し、霞ヶ浦産の鯉や白魚等を使った「地産地消とヘルシー」をコンセプトとした料理、季節の果物で作るスイーツを提供するほか、レンタサイクル、イチゴやぶどうの収穫体験と名所を巡るサイクリングを組み合わせた体験観光事業等を運営。



古民家江口屋

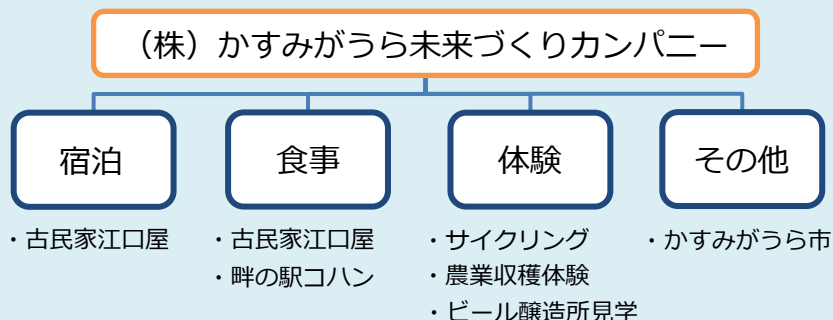


レンコン掘り体験



サイクリングの様子

体制図



取組の成果

- 古民家を活用した農泊事業
 - ・売上 : 540万円 (R2) → 1,150万円 (R4)
 - ・宿泊者数 : 480人 (R2) → 1,140人 (R4)
- 隣の駅コハン（かすみがうら市交流センター）事業
 - ・売上 : 4,000万円 (H30) → 5,140万円 (R4)
 - ・来場者数 : 3.1万人 (H30) → 3.5万人 (R4)

ウェブサイト▶ <https://kasumigaura.miraidukuri.jp/>

○栗やサツマイモの栽培と6次産業化の取組を通じて、季節ごとの労働力の偏りを平準化し、障害者が年間を通じて作業できる場を提供。また、加工施設やカフェを整備した廃校でイベントを開催し、県内外からの来訪者を誘致。

基本情報

- 所在地：茨城県笠間市
- 選定表彰：
 - ・優良ふるさと食品中央コンクール表彰 国産農林産品利用部門 農林水産省大臣官房長賞（R5）
 - ・いばらき農の6次化商品コンテスト特別賞（R5）
- 主力商品・イベント：
 - ・栗商品（栗ペースト、モンブラン）
- 活用した支援施策：
 - ・ものづくり補助金（R5）（経済産業省）
 - ・日本一の栗産地づくり推進補助事業（R3～4）（笠間市）

取組の概要

- 福祉事業を通じた地域活性化に取り組む中で、業務の細分化が可能な農業と障害者作業との親和性に着目し、平成29年に農業へ参入。
- 農業改良普及センターの技術支援を受けながら栗やサツマイモを栽培するとともに、農閑期に加工作業を行うことで労働力の平準化を実現。
- 廃校を利用して農産物加工施設やカフェを整備し、イベントを企画・開催。廃校が地域のシンボルとなり、県内外から来訪者を誘致。
- 6次産業化で農産物の付加価値を高めることにより、障害者の工賃向上を実現。
- 加工原料に地元生産者の栗も使用することで、地域経済にも貢献。



栗の園場

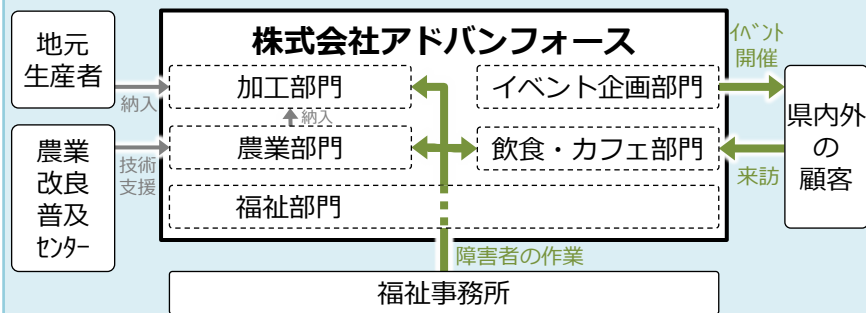


栗のスイーツ



廃校でのイベントの様子

体制図



取組の成果

- 年間栗収穫量 : 0t（H29） → 10t（R6）
- 栗ペーストの製造 : 0t（H29） → 25t（R6）
- カフェの年間利用者数 : 0人（R4） → 約2万人（R6）
- 従事する障害者数 : 平均6人/日（R4） → 平均9人/日（R6）
- 障害者の平均工賃（就労継続支援A型事業所） : 76,430円/月（R4） → 83,102円/月（R6）

ウェブサイト ▶ <https://www.advanforce.co.jp/>